



おきなわびょういん
国立病院機構 **沖縄病院**

地域連携室ニュース

基本理念
患者さまの立場を尊重し
高度で良質の医療を提供します。

平成27年12月 No.85号

独立行政法人国立病院機構

沖縄病院

地域医療連携室

沖縄県宜野湾市我如古3-20-14

電話 098-898-2121 (代)

FAX 098-898-6433

(連携室直通)

新・西病棟完成記念式典に寄せて

“Einer für Alle, Alle für einen” (独語)

= **“One for all, All for one”**

病院長 川畑 勉

新・西病棟完成記念式にあたり、ご挨拶申し上げます。西1、西2病棟の患者様、ご家族のみな様、職員のみな様には老朽化した建物での長きにわたる不便な生活に別れを告げ、37年ぶりに新病棟との出会いの場を迎えることができました。新病棟完成により、今後はより快適な療養生活が迎えられると思います。

この度、記念式の日を迎えられたことを大変うれしく思います。それと同時に、建築に心血注いで立派な病棟を完成させていただきました建設設計事務所、建設会社、水道・電気関係等々多くの職種の専門的技術の結集のおかげであり、改めて感謝申し上げます。

私達の医療界も、患者様、家族会、医師、看護師、地域連携室、療養介助職、薬剤師、検査技師、理学療法士、放射線技師、栄養士、事務職員など多くの職種のみなさんが「**一致団結**」して協力する「**チーム医療**」があつてこそ、『良質の医療の提供』に繋がると言っても過言ではありません。逆にこれを達成するためにはメンバーの協力が必要不可欠です。

建設業界にも医療界にも共通したのが「**チームの和**」です。今年、大いに盛り上がったラグビーワールドカップでも、エディー・ジャパンは優勝候補の南アフリカを始め、サモア、アメリカに勝ちました。中でも南アフリカ戦は、ラグビーワールドカップ「**最高の瞬間**」を受賞しました。世界が最高の試合と認めたのです。南アフリカに勝てたのは**チームとして機能**していたからこそ成しえた、ある意味“想定内のサプライズ”だったともいえます。

沖縄病院は、沖縄県唯一の『難病医療拠点病院』として、県民の負託に応えられるよう今後も一層努力し、『求められる医療の提供』に邁進する所存です。

全職員が一丸となって「**One for all, All for one**」の精神で頑張っていきましょう。

そして、皆で「**沖縄病院 WAY**」を歩いていきましょう。



当院では沖縄型神経原性筋萎縮症の臨床試験（治験）に向けた実施計画を策定中です。最近、新聞にも取り上げられました。そこで、この沖縄型神経原性筋萎縮症について、神経内科科長 諏訪園医師にお話を伺いました。

沖縄型神経原性筋萎縮症をめぐる話題

神経内科科長 諏訪園秀吾

沖縄型神経原性筋萎縮症 (<http://www.omim.org/entry/604484>) は、常染色体優性遺伝形式の筋萎縮を起こす疾患で、神経原性であるにも関わらず近位 (proximal) 筋萎縮が強いので我々は HMSN-P と略称してきている。近年、滋賀県やブラジル移民で類似症例の発症が報告されており、決して沖縄だけの疾患ではない。徳島大と東京大のグループから関連する遺伝子異常が国際一流誌に報告され、一連の研究から難病中の難病とされる筋萎縮性側索硬化症 (ALS) と、病態生理の一部が共通ではないかとも推測されるため、ALS のモデルとなる可能性が想定されるようになり、一気に脚光を浴びる事態になっている。

鹿児島大学において末梢神経疾患を対象として、ある内服薬の治験を行う多施設共同研究が企画されており、HMSN-P についても当院で行うお誘いがあり、当院倫理委員会へ申請を行い、治験実施について既に許可が下りている。鋭意準備を進めていきたい。ただしこれは遺伝子異常そのものを治療しようとするものではなく、ある意味では対症療法であるが、臨床経過を改善する可能性があるため、試す価値は十分にあるものと考えている。この動きに関連して、10月16日付けの新聞に患者会が「研究班設置」の嘆願のために署名運動を行っているとの報道がなされた。昨今の医学研究費の動向から推測すると、「既存の研究枠組みの中で行うべきものである」といった「冷ややかな」お返事になる可能性も否定出来ず、行く末が案じられる。

当院は沖縄県から難病拠点病院の指定を拜命している。幾多の神経難病を診ていかなければならないことはいうまでもなく、ここ数年の退院患者数は驚くべきペースで増加している(にも関わらず連携室に寄せられる地域のニーズに答えきれていないことは実に残念でならない)。この観点からは、数ある神経難病の中で一つの疾患だけに集中することは決して適切とは言えない。ある統計によると、全国都道府県別に神経内科医師数で人口を割った数字(何人の県民を一人の神経内科が分担することになるか)は全国で沖縄県が最多であり最少の東京の約3倍強となっているとする統計もあるときく。つまり、本県は神経内科医数が全国で最も足りない県であるとも考えられる。この状況下では多職種連携は非常に重要であり、数多くの施設が神経難病診療に関わっていただくことが切に望まれると言わざるをえない。

当院神経内科は、これまでもこれからも、神経難病の診療に全力を尽くしていきたいと考えている。地域・自治体・様々な患者団体などを含めた多方面のご協力が不可欠であり、変わらぬご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。



第 69 回 国立病院総合医学会 開催



第 69 回 国立病院総合医学会が 2015 年 10 月 2 日（金）、3 日（土）の日程で、札幌にて開催されました。学会では、当院呼吸器外科 河崎英範医師と診療情報管理室（藤田香織/呼吸器内科医師・他）がそれぞれベスト口演賞、ベストポスター賞を受賞しました。

代表して藤田医師に国立病院総合医学会への参加意義という内容で寄稿していただきました。

呼吸器内科 藤田 香織

実質的に病院全ての職種が参加可能な学会なんて、国病学会以外ほとんど無いのではないのでしょうか？当院でメジャーな診療科である呼吸器科であっても学会の際は内科系、外科系と分かれています。（その中でも更に、内科学会、呼吸器学会、結核病学会、肺癌学会、感染症学会・・・と色々ありますが。）勿論、神経内科ももっと細分化されたマニアックな学会等がいっぱいあるはずですが。医師以外でも看護やその他の診療技術部も通常参加するとしたら、それぞれの様々な学会になります。それを考えると国病学会は非常に貴重な機会だというのが分かります。

日頃はあまり発表の機会がない事務部についても演題が多く、この発表を聞くことも私にとっては職種間の相互理解の助けになります。中でも業務改善に関する発表などは同じ国立病院での試みなのでその内容も自院へ持ち帰って検討したり、再現したりするハードルが低いように思われ非常に勉強になります。

どの職種も多忙な中で発表するポスターやスライドを作るのは大変で、発表が終わると一仕事やり遂げた気になります。しかし折角国病学会に参加しているのだから自分の分野の学術的な発表だけでなく、QC 活動やその他の分野（病院経営、診療連携、診療支援、診療情報管理他）の演題にも興味を持って吸収して帰ってくると、医学的な事だけでなく病院全体が見渡せる視点を得ることができ、学会参加の意義が高まります。

今回は沖縄→北海道という最も長い移動距離を伴う学会参加となりました。参加した皆さん、沖縄病院の今回の旅費は総額でいくらになったのでしょうか？病院からだけではなく、教育費や自費で参加されている方もいます。そしてその費用対効果についても考えてみて下さい。



次回の国病学会は開催地がこの沖縄です。

今まで学会に参加されたことのないスタッフこそ、次のチャンスを活かしていただきたいと思います。再来年の発表に向けてネタを考えながら日々の診療にあたるとこの1～2年で得られるものはかなりなものになるはずです。

当院の理念である「患者へ高度で良質な医療を提供する」ためには、自身の継続的な努力が必要で、そのモチベーションを保つためにも学会参加はオススメです。また日々の業務につかわれて潰れてしまいそうなきこそ、その業務改善策を考え、実践し、発表につなげ、旅先でリフレッシュして、帰院後は更に業務へ集中できるといった正のスパイラルをまわして欲しいと考えます。

～出張講座を行いました～

理学療法主任 ふち かおり 湊 香緒里

7月15日14時からの約1時間、宜野湾区公民館において「転倒予防～転ばぬ先の杖～」というテーマで出張講座をさせていただきました。約90名の宜野湾区OB会の方々が参加してくださいました。

あいさつの後、院長から沖縄病院についての話がありました。診療科や検診の話があり、沖縄病院の特色が伝わったのではないかと思います。

その後、天願理学療法士がパワーポイントを使用し『転倒について・転倒予防について』の話をしました。体の問題だけではなく、周りの環境も転倒の原因になるため家の中の整理整頓や環境調整が大切であることを伝えました。メモをとったり、頷きながら聞かれたりしている姿が見られました。その後、実際に体を動かしながら転倒予防体操を行いました。座位で行うものと立位で行うものを行い、中にはバランスを必要とする運動もありましたが軽快に行える方が多く驚きました。また、「この運動しているよ」との言葉も聞かれ、日ごろから気を付けて運動されていることが感じ取れました。

最後には質問も頂き、この内容に興味を持っていただけたのではないかと感じています。

講座の中で、合い言葉を2つお伝えしました。今後日々の生活の中で、少しでもこの合い言葉を思い出していただき、また転倒予防体操を実施していただけたらと思います。



「取り戻そう！健康・長寿おきなわ！！」を合言葉に、平成26年3月「県民が健康・長寿を維持継承し、生きがいに満ちた豊かな人生を送ることが大切である」ことを基本理念とし、「健康おきなわ21（第2次）」（健康・長寿おきなわ復活プラン）が策定されています。

沖縄病院も、さまざまな機会にこの計画に協力していきたいと考えています。

もうすぐ新しい年を迎えますね。みなさまにとってよい年になりますように・・・



よいお年をお迎えください。地域医療連携室一同より

外来診療科担当医表

診療受付時間 内 科 8時30分～12時まで
 外科 8時30分～15時まで
 胸部 精査 8時30分～16時30分まで（12時以降は外科）

平成27年12月1日現在

曜日		月	火	水	木	金
内科	呼吸器内科 (紹介状あり) (8:30~12:00)	仲本 敦	知花 賢治	【外科担当】	比嘉 太	【交代制】 ①知花 賢治 ②新垣 珠代 ③仲本 敦 ④比嘉 太
	呼吸器内科 一般内科 禁煙外来 (紹介状なし) (8:30~12:00)	比嘉 太 知花 賢治 久場 睦夫	大湾 勤子 仲本 敦	久場 睦夫 【アスベスト外来】 久場 睦夫	大湾 勤子 知花 賢治 第1,3,5(15:00~16:00) 第2,4 (14:00~16:00)	仲本 敦 久場 睦夫
	総合診療内科 消化器内科 (8:30~12:00)	古謝 亜紀子 (8:30~11:00)	樋口 大介	古謝 亜紀子	樋口 大介	古謝 亜紀子 (8:30~11:00)
緩和医療外来 (予約制)		久志 一朗		久志 一朗	久志 一朗	
神経内科	新患 (予約制) (8:30~12:00)	渡嘉敷 崇 宮城 哲哉	石原 聡 城戸 美和子	【休診】	中地 亮	
	再診 (予約制)	諏訪園 秀吾	中地 亮	【休診】	石原 聡	諏訪園 秀吾 城戸 美和子 宮城 哲哉
放射線科		大城 康二	大城 康二	大城 康二	大城 康二	大城 康二
		※ CT・MRI・RI検査・放射線治療(リニアック)は随時受付				
外科	外科 呼吸器外科 血痰外来 肺ドック (8:30~15:00)	河崎 英範 久志 一朗 (消化器)	石川 清司(午前) 伊地 隆晴	石川 清司 饒平名 知史	川畑 勉 古堅 智則 (10:00~12:00) 久志 一朗 (消化器)	平良 尚広
	那覇市・浦添市・宜野湾市 がん検診	9:00~15:00	9:00~15:00	9:00~15:00	9:00~15:00	9:00~15:00
整形外科				林 かおり (9:00~12:00)		
専門外来		【乳腺・甲状腺外来】 村山 茂美 (予約制) (14:00~17:00)		【循環器専門外来】 比嘉 富貴 (9:00~12:00)	【糖尿病外来】 【交代制】 (9:00~12:00)	
				【ピロリ菌・大腸CT】 古謝 亜紀子 (13:00~15:00)	【ピロリ菌・大腸CT】 樋口 大介 (13:00~15:00)	
				【総合相談】 石川 清司 (13:00~16:00)	【皮膚科外来】 苅谷 嘉之 (14:00~17:00)	

※ご不明な点・予約変更等ありましたら下記へお問い合わせ下さい。
 ※お問い合わせ時間は、9:00~17:00までとなっております。
 ※セカンドオピニオンは病院間の調整で予約を受け付けております。
 ※『乳がん検診』につきましては月曜の午後のみの受付となります。



独立行政法人国立病院機構 沖縄病院

〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号

TEL 098-898-2121 (代)

FAX 098-897-9838